

第1回（仮称）えんがる町民センター建設検討協議会事業部会会議録

- 日時 平成30年7月20日（金）午後3時
- 場所 遠軽町役場 3階 第4会議室
- 出席者 別紙のとおり
- 会議内容

1 開会

第1回目の会議であり、部会長が決定するまでは事務局で議事進行を行う。

2 議題

進行：事務局 今井参事

（1）部会長の選出について

説明：地域拠点施設準備室 今井参事

説明要旨
（事務局） ・部会長の選出については、委員の方からの推薦をお願いいたします。

【意見】

発言者	内容
伊藤委員	大西委員を推薦します。湧別でいろいろ経験をしている。それらを考えると大西委員が良いと思う。大西委員は本日休みなので、次回会議で決めるということでどうでしょうか。
各委員	異議なし
伊藤委員	本日の会議は事務局で進めてください。
事務局	部会長選出については、次回会議で決めたいと思います。

（2）事業提案について【資料1・資料2】

説明：地域拠点施設準備室 今井参事

説明要旨
（事務局） 資料1 第1回（仮称）えんがる町民センター建設検討協議会事業部会事業提案について ・（仮称）えんがる町民センター管理運営方針（素案）の基本理念である『音楽を中心とした文化活動を生かして、文化面から町の活性化を図るとともに、経済産業活動・地域活動の拠点となる「町民のよりどころ」を作り、育てる。』ことを実現するためには、「自主事業」、「貸館事業」、「連携事業」を積極的に取り組む必要があります。 事業部会では、これらの事業を展開していくための企画立案を行っていただきます。 ・事業部会の設置については、平成30年1月19日開催検討協議会資料抜粋になりますが、(1)自主事業について 主に大ホールを利用した様々なジャンルの公演事業を企画し、地域の人々にできるだけ多くの鑑賞機会を提供する。 (2)貸館事業について 今までの福祉センターと同じ機能になります。町民や文化団体、学校等に大ホールをはじめとする諸室を提供します。

(3)連携事業について 地域住民や関係団体などの外部と積極的に連携が必要と考えます。地域住民との連携、学校との連携、他館との連携、各種団体との連携等の連携事業が必要となります。

(4)プレ事業・開館記念事業について プレ事業は、町民センターの開館に向けて、早い時期から施設の周知を行うとともに、期待や関心を高めるようなイベントを既存の公共施設などを活用して実施し、町民や関係団体との協力連携により企画・実施するものです。

開館記念事業は、グランドオープン時の事業となります。最初に行う事業であり、町民をはじめとする多くの関係者とともに完成を祝うとともに、新しい施設の設備や機能を周知する重要な機会となります。早い時期からどのような事業を行うか計画する必要があります。

- 事業部会の進め方については、(仮称)えんがる町民センターの開館(平成33年夏頃予定)に向け、前段で話しました各種事業の企画立案を、次の例のようなスケジュールで進めていくことが想定されますが、より効果的な部会の進め方についても皆さまと検討する必要があります。例えば、利用予定団体によるワークショップの開催や公益社団法人全国公立文化施設協会による芸術文化活動支援(派遣型)とありますが、専門家による企画・実施等に関する指導・助言の活用をすることとなります。

スケジュールとして、本日以降事業の検討、情報収集、資料収集、調査が必要となり、H31.9頃までに企画立案を行い、プラン作成、企画に対する予算、相手方に打診、交渉を行うこととなります。そして、H31.10頃に協議会として町に対する提案を行う。H31.12頃に町は提案を受けて事業の決定を行う。H32.4に指定管理者を決めますので、事業に対する出演依頼の契約、準備、広報活動などを行ってもらう。H33年開館以降も事業について継続的に行ってもらうこととなります。事業を行う1年半前には相手方と交渉を行っていかねばスケジュールが組めないと言われています。

自主事業の場合で説明しましたが、H31.10までに貸館事業、連携事業、プレ・開館記念事業についても検討していかなければなりません。

公益社団法人全国公立文化施設協会という団体がありましての劇場・音楽堂等への芸術文化活動支援で支援員の派遣による支援があります。全国で49の劇場で支援員の派遣を行っており、新設する劇場の支援も行っております。派遣の回数は年4回で1回の支援時間は4時間となっております。費用については協会で負担してくれます。町の負担が無く利用できるのも、十分活用していければ良いと思います。山形県の例では、施設の運営に係る組織体制のあり方、貸館事業の利用規則、利用手続き及び貸館事業の注意点、運営費の積算、指定管理者制度を活用する場合の、募集条件設定にあたり留意点等のアドバイスをうけています。次に、大分県竹田市の例では、年4回の支援を受けていまして、支援内容は人員体制、広報宣伝、顧客管理、チケットの発行・販売、友の会事業、貸館事業、マーケティング、自主事業へのアドバイスを支援員から支援を受けている。支援員からの報告では「ほぼ1年後に開館を迎える劇場施設ながら、同種の施設の開館経験者がいないことへの不安に対するアドバイスや、竹田市の直営のため、劇場・音楽堂等施設に必要とされるチケット販売システム、貸館管理システム、HP、広報宣伝などについての予算措置などが予定されていないものもあり、穂の国とよはし芸術劇場が開館に向けて準備したスケジュールや予算などを具体的に伝えることで、開館前までに検討・準備すべき課題や予算規模などが具体的にイメージできたのではないかと思います。」ということで、遠軽町と同

じ様な状況だと思えます。支援員を活用して開館に結び付けていくという例です。

- 岩見沢市の事業活動例として、本年2月20日に岩見沢市民会館・文化センター「まなみーる」において、管理部会及び事業部会による視察調査に行きましたおさらいになります。同センターの指定管理者であるNPO法人はまなすアート&ミュージックプロダクションの担当の方から、自主事業及び貸館事業等に関する活動について聞き取りした内容です。

(1)自主事業の実施に当たり、事業内容の検討方法はどのように行われていますか。の問いに⇒現場スタッフが原案を作成し、月1の理事会で協議する。ザックリとした年間スケジュールは年1の総会で諮問しているとのことでした。

補足説明として、市民などの運営委員会などもよくあるが、民主性は達成できても、独創性は生まれにくいことが多く、メリット・デメリットがある。鑑賞型事業は札幌など、皆が見やすいものを選ぶが、創造的な1から10まで育成して自分たちでつくり上げるような、コアな変わった事業にも取り組んでいる。

(2)貸館事業において、実際にあったトラブルの事例や、特に注意しておく点はどのようなことでしょうか。との問いに。⇒1. 減免団体が申請→実際には別の利用者だったケース/2. 貸しホール本番前日にボイラー設備不調/3. 悪徳業者の利用といったトラブルが実際にあったとのことでした。

(3)各種団体との連携により、実際にどのような事業が行われていますか。という問いに、⇒公演制作・チケットング・舞台演出のコンサルティングなど、進んで製作協力という形で関与する。補足でディズニーオンクラシックや劇団四季など、買い取ると1千万円を超えるようなものもあるが、手打ちでやっていただき会場費もいただいて、ボランティアや営業、チケット販売などでお手伝いしながら、年に数本は大きな公演を呼べるように頑張っている。年に3~4本は、地元の少年少女合唱団などがオペラやミュージカルなど、1つ上のランクの公演をしたいとなった時に、補助金を探して申請のお手伝いや演出をし、お金は少々いただきながら、一緒につくり上げるようなこともしている。とのことでした。

(4)施設の利用促進のため、友の会などを設立されていますか。との問いに、⇒ファンクラブ等は設立していないが、ボランティアスタッフ組織はある。会員120名程度いるということでした。

岩見沢市の事例を踏まえた上で、事業部会の検討をしてくことになろうかと思えます。事業部会の進め方、スケジュールがこのような形でよいか、議論していただければと思います。

【意見】

発言者	内容
本田委員	事業の検討の中で、情報収集、資料収集、調査とありますが、こういうことをやりたいと提案したときに、どういう流れになるか見えてきません。
事務局	その辺をどのように進めていくかが、決めかねているところで、委員の方々が見たり、聞いたりしたことを部会に持ってきてもらい、町民センターに相応しいものを選んでいく流れになるかと思えます。最初のうちはいろいろな意見を出していただけていくことになります。

	他に良い進め方があれば意見を出して下さい。
高橋委員	吹奏楽でいうと、吹奏楽連盟が絡んでいかないとはいけません。吹奏楽連盟、指導者達の間で提案が出てという流れになります。一般の人から提案がでて、吹奏楽の人達は動かないと思います。
本田委員	事業展開していく中で、提案は後でもできると思います。1年間の中で各団体がどのくらい事業ができるのか。大まかなスケジュールを決めないといけません。
伊藤委員	こけら落としの年の分は、ある程度は町というか部会で企画します。その後は指定管理者が中心となり事業を決めていく。H32年度に指定管理者が決まり、オープンまで1年と少ししかありません。1年位の間でオープンとその後の事業企画ができないでは困る訳で、指定管理者の指定を早めた方がいいのではないかと。いろいろな課題を部会で話し合いしなければならない。
事務局	事業部会で提案が出た事業の内容を町で予算を取ります。そこでOKが出れば指定管理者に対して事業の協議を行う形になります。指定管理者がH32年4月に指定を受けてH33年度以降のプランを考えていくことになり、H32年度までに事業部会で出た提案をベースとして、指定管理者が翌年度以降事業を考えていく流れです。
竹之内委員	まずは事業部会で、H33年オープンに向けて、こけら落としで行う事業計画を提案してもらい、貸館事業もやる訳ですから、どうやって事業を引っ張ってくるか、プロダクションの企画ですとか、町内音楽を核とした経済を成り立たせるか、広報と営業努力が必要になってきます。積極的に使用してもらおう施設なので、地元団体を優先しながらも、空いたスポットをいかに埋めて利用を深めるかが大事である。自主事業と貸館事業で利益を上げるような営業をしなければならない。 まずは事業部会でこけら落としに向けて事業を考えるということでもいいですか。
事務局	事業部会はこけら落としだけではなく、その後の継続的に行っていく事業についても考えていただきたい。
本田委員	H33年のオープンに向けて行うことが、どういうことをどうやっていくのか、ざっくりしすぎて分かりません。提案する立場ですけど、オープンするときに行う事業なのか、それ以降の行う事業なのか、次の1年間の事業を決めるにしても、各団体の事業が分からないとできません。
竹之内委員	H31年9月までの企画立案はH33年度の事業で、H33年度の事業が決まれば、H31年12月からは、H34年度以降の事業の話し合いができるというイメージでした。
本田委員	ある程度の見通しをつけないと、次に引き継ぐことができません。
事務局	提案された事業は指定管理者に引き継ぐことになります。事業部会は(仮称)町民センターが完成するまでの期間しか任命していませんので、完成した時点でうまく事業の引き継ぎができればいいと思います。将来的に継続し

	<p>ていけるプランを考えてもらえればと思います。</p> <p>教育委員会で行っている事業と年間通じての調整が必要になってきます。そういうことを踏まえ調整して指定管理者に引き継ぎます。</p>
伊藤委員	<p>事業部会は町民センターが完成したら終わりになりますが、建物が完成しても事業の企画立案はあります。事業部会が継続することも考えられます。各団体と協力をもらわないと前へ進めません。指定管理者が中心となって動かしていくことになります。</p>
竹之内委員	<p>残さなければいけない事業がありまして、町民音楽の広場は地元で長年継続しています。指定管理者がどこになろうとも継続しなければいけない町の文化です。今まで総合体育館、福祉センターで継続して行われてきた行事をどうしてくかについても整理しなければなりません。</p>
伊藤委員	<p>営業という部分を考えれば、ある程度の収益を上げないといけません。黒字になるのは難しいかもしれませんが考えて努力していかないといけません。</p>
本田委員	<p>町民音楽の広場等は毎年何月に行うか1度スケジュールに入れて空いた所をどう埋めていくかが必要です。</p>
竹之内委員	<p>岩見沢では、優先することは優先すべき、それ以外の稼働率を貸館含めてどう上げていくか、単に町民に減免で貸すのではなく、適正に貸館料を頂いて呼ぶことができるか、呼びたい良い時期は町民の方も同じで、優先される行事はあらかじめ分かっているならば、スケジュールが組めます。ルールを決めてもらった中で空いている所を埋めていければ良いと思います。</p>
中南委員	<p>文化連盟の取り決めて日にちは決まっていますが、現在は芸能発表と展示が同時にできない状況のため町民センターが出来ましたら見直しがあると思います。もともと文化の日にちなんで開催していましたが、祝日に足を運ぶ方が少なくなり、こういった状況を連盟は認識しております。</p> <p>また、会員数が激減しているため、単独開催が困難になってきています。今後町民センター建設までに議論されると思います。</p>
本田委員	<p>事業検討の情報収集とは何をどうしたいのか詳しく教えてください。</p>
事務局	<p>事業部会の中で情報を集めるということです。本田委員であればダンスの団体で他の方から情報と意見をまとめていただき、その中からイベントを企画していくという形になります。</p>
高橋委員	<p>自主事業というのは、町民音楽の広場みたいな町が町民のために行う事業で、利益がどうかではなく、補助金をだして行う事業で、こけら落としの事業をここでどうするかを決めて町が行う事業であって。その他の吹奏楽、ダンス等の事業をここで決めるのは違うと思います。町の行事で継続して行うかを話合う場だと認識しています。</p> <p>各地域のホールでどのくらいの自主事業があるのかを参考して遠軽はどうするかを考えていければと思います。アンサンブルを呼ぶのは貸館事業だと思います。</p>
伊藤委員	<p>こけら落としというのは、オープン初日なのか、1年なのか、3ヵ月なの</p>

	<p>か普通はどのくらいなのか。</p> <p>網走市ではN響を読んだとき開館1年以上経ってからこけら落とし公演と言っていました。</p>
中南委員	<p>N響であれば数年前からスケジュールが埋まっている団体なので、開館時にこけら落とし公演しなかったのが、スケジュールが取れたのが1年経ってだと思えます。</p> <p>遠軽町では時間が経たない間に、幅広い年齢層の方が新しい施設ができたことを共通理解できるようにした方がいいと思えます。</p>
高橋委員	<p>オープンイベントで町が行うのがこけら落としで、団体が自ら来て行うのはこけら落としではありません。期間はとくに無いと思えます。</p>
事務局	<p>館が行う事業が自主事業であって、その費用は指定管理者が持つこととなります。その中でこういった事業をやるか選定するのが部会の位置づけだと思います。まだ指定管理者が決まっていないので、館の顔となる事業を選定するのが部会だと思います。ジャズ、ポップス、吹奏楽でも館で行う事業なので、どれを選定するか話し合う場だと思います。</p> <p>北海道文化財団の公演企画資料がありますが、その企画のどれもが館で主催するのであれば自主事業となります。この企画の中から年間どのくらいの事業をやるかで予算は変わってきます。その辺を今のうちから話しをしていく流れになると思えます。</p>
本田委員	<p>例えば太鼓をやるにしても、太鼓の団体がいないのでわかりません。</p>
事務局	<p>太鼓のイベントを場合では、外部の団体を呼ぶのか、地元団体で行うのかはこの場で企画立案をして、団体に提案を行う流れになると思えます。</p>
高橋委員	<p>予算は決まっているのですか。</p>
事務局	<p>予算については、どの事業をやるかによりますので、どのくらい必要かも合わせて提案となります。提案が町で決定になったときに予算がつくこととなります。</p>
高橋委員	<p>やりたい事を先に決める形ですか。</p>
事務局	<p>今は予算内ということではなく、やることを決めてからとなります。</p>
本田委員	<p>企画書の中に有名なダンスの企画があったのですが、世界的に有名な団体です。</p>
事務局	<p>どのような企画があるか1度見ていただいてからでいいと思えます。</p> <p>企画書の中に金額、内容等記載しています。</p>
高橋委員	<p>ホールができるにあたって、町民のために文化活動をする企画で町民が潤うか、外部からチケットが完売になる大物アーティスト等を呼んで近隣市町村から来町して、遠軽が有名になり、お金を遠軽に落としてもらうのか等の作戦がないとダメです。何でも呼べばいいというものではありません。作戦をたてて、遠軽地名度を上げるか、遠軽のものを買ってもらうようにするのか、遠軽に足を運んでもらうのか、または町民のためにするのか、いろいろあると思えます。町民の趣味はいろいろなので、いろいろな団体を計画的に呼ぶことも作戦の1つです。</p>

事務局	今言われたことが自主事業の大事な部分で、自主制作型のイベントと買取型のイベントがあります。この2つの事業を上手く使い分けて、中身を具体的に考えていく必要があると思います。
高橋委員	ホールの中のイベントだけではなく、その後お客様に対してどうするかも必要です。
事務局	公演企画資料の中にも書いてありますが、イベントに合わせてワークショップを行う企画があります。企画に入っていないなくても交渉次第でワークショップ等やってくれると思います。ワークショップを行うことで地域の子どもたちがプロの技術を見て感じることは良い経験になると思います。
伊藤委員	あと問題なのは町内に宿泊施設が少ないという点です。中には温根湯まで泊まりに行く方がいます。遠軽に来たくても宿泊施設が少ないでは困ります。
高橋委員	ホテルが少ないからできないことはあるのですが、10年20年先を考えイベントを行い宿泊先が足りなくなるとなり、ホテルが建ち、出来るイベントが増えて、宿泊先が足りないという繰り返しになる取り組みを考えていかねければなりません。
高桑委員	高額の演歌、ポップスと呼ぶのも1つですが、少額でも良いものはあります。少額で数回呼ぶことも方法の1つです。
竹之内委員	町民に来てもらい、親しみやすいホールにするためには、専門性に特化した部分と、万人受けする各年代の種目別で考えていけば、ある程度の球だしができると思います。札幌等は専門性が高くなってしまい、町民が全体的に来てくれることはないと思います。 こけら落とし期間が3ヵ月なら、3ヵ月の間にどの年代の方もどれかに行ってみたいと思えるようなプログラムがあってもいいと思います。
本田委員	評価の良い公演であれば、次年以降も来てくれることもあります。
竹之内委員	例えば、こけら落としをきっかけにNHKの子ども番組は親子を対象に、のど自慢等は年齢問わず文化性があります。更には音楽に特化したものと呼んで、近隣の市町村が音楽に親しめる場をつくれます。道警音楽隊は子どもへの教育を含めてやってくれます。近隣市町村に来るときに調整ができると思います。
中南委員	教育委員会で行っているスキー大会では、約350人の選手関係者がいます。この人数は遠軽町内の宿泊施設では収まらず、温根湯まで泊まりに行っています。 大きな催事をやるときは、それなりの人数になります。選び方も必要となります。 あと問題になるのが、チケット販売です。主催者側の大きな負担となり、企業の方はその辺は分かっている、公演企画資料の中身も大ホール対象よりは、小ホールくらいの規模を対象にしている企画が多いとおもいました。自治体の人口の減少を考えた企画という印象でした。 体験型の部分では、2～3年で学習指導要領が変わります。民間ではそれ

	<p>を見据えた体験型プログラムを提供しています。遠軽町として、収益を考えた企画にするのか、教育を考えた企画にするのかを考えなければなりません。</p> <p>北海道の文化ホール団体「シアターネットワーク」があります。将来的に遠軽町には加盟していただきたいと話がありました。オホーツク管内では自治体レベルで「オホーツク文化ネットワーク協議会」がありまして、来年度以降は教育委員会として関わりを持っていきたいと思っています。近隣ホールとの連携、補助金の活用について連携がとれるようになります。</p>
竹之内委員	<p>事業部会として、開館事業を決めながら、今後の自主事業を進めていくということで同時に進めるものなのか、まずは開館事業をやって、自主事業を詰めていくのか。</p>
事務局	<p>どのやり方がいいか、進め方についても部会の中で決めていただければと思います。</p>
竹之内委員	<p>開館事業が先に煮詰めながらだと思えます。</p> <p>開館事業はイベント性があり自主事業でできないものをやり、自主事業は足を地に着けて行わなければならないものだと思います。それプラス貸館事業と連携事業の利用を高めていかなければいけません。</p> <p>H33のオープンまでに、町民センターの周知、町民から愛されるように考えていくことが大事です。今は開館事業を考えていく方がやりやすいと思います。</p>
事務局	<p>大きな違いは、開館記念事業は町の予算でやり、自主事業は指定管理者の予算でやることです。開館事業で何をやるかの提案と、指定管理者が運営できるように考えていく提案が必要です。</p>
本田委員	<p>町として開館イベントでこういうのをやりたいというのはありますか。</p>
事務局	<p>町ではありません。部会で話し合ってもらうことです。</p> <p>次回会議までに最近オープンしたホールでどのような開館イベントを行ったか調べてみます。</p>
本田委員	<p>イベントをあれもこれもとはできませんので、町の予算がどのくらい使えるかが分かった方がやりやすいです。</p>
竹之内委員	<p>無償でやるものと、無償でできないものがあると思います。町民の子ども達がやるものであれば無償ですし、外部から呼ぶと入場料を徴収するものが出てくると思います。自主事業も同じで指定管理者の予算で事業を行い、入場料で相殺して足が出ないようにするイメージです。</p>
中南委員	<p>事業部会は開館しましたらなくなります。その後、文化連盟や関係団体から教育委員会に意見が出てくるときに、次の世代、若い方々にも関わってもらえるような窓口を広げてほしい。他町では実行委員会が立ち上がっています。行政が主導の部分がありますが、指定管理者と実行委員会がうまく関わられる仕組みを作っていかなければなりません。住民の声を拾う場が必要です。</p>
竹之内委員	<p>実行委員会が指定管理者と関わりの中で、実行委員会がやりたい事業企画</p>

	<p>して、それを指定管理者が必ずやる訳ではありません。実行委員会は企画団体であり、良い企画があればタイアップすることもあります。基本的に実行委員会や各団体の企画は自主事業で行う形となります。指定管理者と実行委員会の交通整理も必要です。</p> <p>岩見沢では友の会があり、センターを応援する団体です。駐車場整備し、券を切ってあげる、自主事業は何本かあったとしても、ある程度は指定管理者が企画立案しています。必ず実行委員会を通す流れだと独自性が無くなってしまいます。その辺は年間通じて棲み分けが必要です。例えば指定管理者と実行委員会がやる部分と、教委委員会が窓口になってやる指定管理者と煮詰めていく等。</p>
伊藤委員	<p>そういう区別が必要となります。今はここでやらないとダメなことは、こけら落としのためにお願いをする団体の選び方。そして開館以降にどうするかを話し合いしなとダメです。指定管理者が決まってからでは遅いので今から話し合いをする必要がある。</p>
本田委員	<p>今日いただいた公演資料を1回見て参考にしたいと思います。</p>
伊藤委員	<p>こけら落としで行う事業については町の方で、それ以外の事業については主催団体で交渉してもらう形となります。</p>
事務局	<p>今回は高桑委員から提案が上がってきました。この中身からいくと貸館事業の中で行われているイベントです。その中でスウィングハート・ジャズ・オーケストラの主催が札幌市民芸術祭実行委員会、札幌市、札幌市芸術文化財団となっています。これは自主事業になります。その他の事業の主催はそれぞれの団体となり、貸館事業になると思います。</p> <p>この中に参考になるものがあると思います。</p>
高桑委員	<p>札幌市でサッポロ未来ジャズというコンサートを約30団体が参加しています。その中から何団体か呼んでコンサートができなかと考えています。参加している団体に箭原 顕（やはら けん）さんがいます。母方が生田原出身で毎年遠軽に来ています。ホールができることを知っているのも、遠軽町に協力したいと言ってくれています。</p> <p>箭原さんは学校に行ってコーラス指導等をできると言ってくれています。</p>
中南委員	<p>学校の体験型アウトリーチ取り組みが増えてきているのですが、生徒指導要領が変わると、音楽の授業時間が減ります。その代り外国語活動が増えます。プロの方が指導してくれるとしても時間が取りづらい状況になります。その辺は調整が必要となります。</p>
竹之内委員	<p>次回までにこけら落としで行う事業を皆さんで企画を持ち寄って、すぐに決まる話してはないので、吟味しながら開館記念事業を考えていき、次にその後の自主事業へと方向性が決めていけばいいと思います。</p> <p>いろいろな案が出てきたら、回を重ねる度に棲み分けが見えてくるのではないかと思います。</p>
事務局	<p>部会の中だけでは決められないので、部会の委員がそれぞれ自分の団体に話しをして、意見をまとめて事業を吸い上げてもらうような方法もあると思</p>

	<p>いながらも、負担になりますので悩むところです。</p> <p>次回までに他のホールの開館事業がどのようなことをやっているか調査します。自主事業も教育事業と合わせて見て拾ってみます。当然予算のからみも出てきますので参考資料として出してみます。</p>
--	---

(3) 情報提供 ※北海道舞台芸術情報フェア 2018 資料

説明：地域拠点施設準備室 林

説明要旨
<p>2日間に渡って約200事業、1事業5分間のプレゼンを聞いてきました。企画内容には地域団体とのワークショップ企画が多くあります。先ほど話しが出ていました、ジャズ&親子の融合した企画等もあります。</p> <p>皆さん初めてのことなので、いろいろな企画が載っています。次回まで企画資料を見ていただいて、よい企画があれば提案していただければと思います。</p>

3 次回の日程について

説明要旨
<p>会議については、月1くらいで行っていきたいと思っております。来月の今ごろに開催したいと思います。</p> <p>太田先生の日程を調整しながら開催案内を出したいと思っております。</p>

4 閉会

(午後5時00閉会)

第1回（仮称）えんがる町民センター建設検討協議会事業部会出席者名簿

区分	氏名	団体名等	備考
委員	高橋 利明	北見地区吹奏楽連盟遠軽支部	
委員	高桑 健次	一般公募	
委員	本田 ちづ子	ダンス教室 ami:φアミ	
委員	伊藤 栄三	元遠軽町文化センター等を考える会会長	
委員	竹之内 義文	遠軽商工会議所	
委員	中南 秀隆	遠軽町教育委員会	
事務局	斉藤 隆雄	総務部地域拠点施設準備室室長	
事務局	今井 昌幸	総務部地域拠点施設準備室参事	
事務局	林 幸司	総務部地域拠点施設準備室係長	
事務局	安西 一樹	総務部地域拠点施設準備室主任	
計	10名		

欠席：大西定信委員（元遠軽町文化センター等を考える会委員）

太田晃正（有限会社時円プランニング代表取締役）